

漢方薬で癒すところとカラダ 1-2 特別編
ウイルス感染症の漢方治療

今年に入って、新型コロナウイルス感染症が話題になっています。一番の問題点は、その致死率の高さです。毎年流行する季節性インフルエンザの致死率は0.1%程度ですが、今回の新型コロナウイルスの致死率は今のところ数%と計算されています。コロナウイルスは、鼻かぜの原因ウイルスとして、誰しも一度ならず感染しているはずですが、今回の新型コロナウイルスは今までヒトには感染していなかったタイプのウイルスです。

ウイルスと戦うヒトの免疫力

病原体に対して戦うヒトの免疫力には、自然免疫と獲得免疫があります。自然免疫は、初め



ての病原体すべてに反応します。作用は弱く、獲得免疫は以前に経験した病原体に対して特異的に働き、強い作用を持ちます。ワクチンは獲得免疫を利用した予防法で、季節性インフルエンザに有効です。抗ウイルス薬があるインフルエンザに対し、新型コロナウイルスにはワクチンも有効な西洋薬はありません。また、獲得免疫もありません。自然免疫が唯一のたよりです。

初めての感染症にも有効な漢方薬

しかし、漢方薬の風邪薬には自然免疫を強化し、自然治癒力を活性化する作用があり、初めての病原体でも効果が期待できます。その代表が麻黄湯です。麻黄湯は交感神経を刺激し体温を上げること、免疫を調節する物質の増加や、体内への侵入者を監視する白血球の活性化を促し、免疫力を高めることが確認されています。また、細胞内

でのウイルスの増殖を抑える働きがあることも発見されました。風邪薬として、鼻水や咳を減らす成分も配合されています。

麻黄湯と同様に麻黄附子細辛湯は、風邪だけでなく、気管支炎や肺炎の治療にも使われます。肺炎にかかったマウスを使った実験でも、麻黄附子細辛湯は免疫を刺激する物質を感染初期に増やし、免疫物質を産生することで、肺炎の重症化を防ぎ死亡率を下げる事が報告されています。

感染症に対する漢方治療の歴史

過去に世界中で流行したスペイン風邪では、全世界で5000万人が死亡し、日本の死者は40万人と推計されています。この時、木村博昭先生は、柴葛解肌湯（葛根湯＋小柴胡湯

かききょうせつこう（加桔梗石膏で代用）や大青竜湯（麻黄湯＋越婢加朮湯で代用）などの漢方薬を用い、自分の患者からは死者を一人も出さなかったと伝えられています。

歴史的にみると、中国では感染症の大流行が繰り返されてきました。漢代に編纂された『傷寒論』は2000年近く経つた今でも漢方薬の感染症治療の教科書として実際に使われています。その序文に著者の張仲景が「私の一族は、昔は200人以上にいたのに、まだ十年も経たないうちに3分の2が死んでしまった。その多くが感染症によるものである」とこの本を出版した動機を書いています。

2000年前の先人の苦悩とそれによって生み出された智慧が、現代人をも救っているのです。（小児科部長 池野一秀）

麻黄湯 まおうとう

悪寒、発熱、頭痛、腰痛、自然に汗の出ない症状を改善する漢方薬です

このような症状に…

感冒、インフルエンザ（初期のもの）、関節リウマチ、喘息、乳児の鼻閉塞、哺乳困難

麻黄附子細辛湯 まおうぶしさいしんとう

悪寒、微熱、全身倦怠、低血圧で頭痛、めまいがあり、四肢に疼痛冷感のある症状を改善する漢方薬です

このような症状に…

感冒、気管支炎

※必ず医師の指示のもと服用してください。

池野医師が書籍を出版！

Dr. イケノの思春期お悩み相談室
漢方薬で癒すところとカラダ

著：池野一秀
定価：本体価格2,980円＋税
B6判・180頁
発行：新興医学出版社



当院 1 階売店「ハーモニー」にて好評発売中！